

STAGE+を楽しむ(197)(HP 掲載)  
—ティーレマンのブルックナー交響曲 7 番—

1. 始めに

前報(196)に引き続き、STAGE+のティーレマンのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のティーレマン指揮シュターツカペレ・ドレスデンのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏を選びました。

ティーレマンが指揮するブルックナーとヴォルフ フレミングを迎えて  
シュターツカペレ・ドレスデン

収録日: 2012 年 9 月 2 日

クリスティアン・ティーレマンが取り組んだ、初の映像作品としてのブルックナー交響曲チクルスは、第 7 番の演奏で幕を開けました。それと同時に、世界最古級として名高い名門オーケストラ、シュターツカペレ・ドレスデンの首席指揮者としての最初のコンサートでもありました。彼の生涯で唯一、初演で成功を収めたこの交響曲は、彼が崇拝していたワーグナーへの追悼として書かれたアダージョ楽章を含んでいます。そして、プログラムの前半では、同じく彼を尊敬していたフーゴー・ヴォルフによる歌曲集が偉大なソプラノ歌手ルネ・フレミングによって披露されます。

ソリスト:

ルネ・フレミング (ソプラノ)

演奏:

シュターツカペレ・ドレスデン

指揮:

クリスティアン・ティーレマン

曲目:

フーゴー・ヴォルフ メーリケの詩による歌曲集 (抜粋)

ルネ・フレミング(ソプラノ)

フーゴー・ヴォルフ ゲーテの詩による歌曲集 (抜粋)

ルネ・フレミング(ソプラノ)

リヒャルト・シュトラウス 5つの歌 op. 39 より第 4 曲 : 解き放たれて

ルネ・フレミング(ソプラノ)

## アントン・ブルックナー 交響曲第7番ホ長調



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブから ティーレマン指揮シュターツカペレ・ドレスデンのブルックナーの交響曲第7番を試聴します。

ブルックナーに先立ち、フレミングのソプラノによるヴォルフとシュトラウスの歌曲の演奏がありました。歌劇場の収録とあって、フレミングのダイナミックな歌唱が豊かに響きわたります。



ティーレマンは、前報(193)の交響曲 4 番同様、端正な指揮でシュターツカペレ・ドレスデンをリードしています。それに応えて、シュターツカペレ・ドレスデンは、厚みのある重厚で緻密な演奏で、音もよく、このオーケストラの実力を実感できました。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、シュターツカペレ・ドレスデンの厚みのある重厚で緻密な演奏で、その実力を実感できました。

以上